資料２－１

令和５年度から令和９年度までの募集定員の策定について

令和５年度から令和９年度までの募集定員については、令和３年度第３回公私立高等学校協議会（令和４年３月 25 日）において、次のとおり策定することとしました。

○　「高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会」（以下「部会」という。）が令和４年２月 16 日にまとめた「令和９年度までの募集定員の公私比率等について」（以下「提言」という。）をふまえる。

○　全日制計画進学率の計算方法や各地域の全日制高校入学見込み人数の算出方法についても、部会における協議をふまえる。

要点は以下のとおりです。

（１）公私比率の方向性について

令和４年３月から令和９年３月までの５年間で、中学校卒業者数が約 1,000 人減少することが見込まれる中、本県の高校が次代を担う三重の子どもたちにとって魅力ある学びの場であり続けられるよう、公私が切磋琢磨して取り組むことが大切である。今後も中学生の進路保障の観点を重視し、県民の理解が得られるよう、以下のように募集定員を策定することが求められる。

○　中学校卒業者数の増減予測をふまえ、中学生の進路状況を検証しながら、生徒のニーズや社会の変化に柔軟に対応できるよう、毎年度公私協の場で協議を行い募集定員総数を策定する。

○　県立高校と私立高校がともに魅力ある学校づくりを進め、公私双方で生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応えながら、中学校卒業者数の減少に適切に対応していくためには、今後の公私比率を確定的に定めるものではないものの、その方向性を明らかにする必要がある。

○　県立高校は、県内の広域にわたり学校を設置し、普通科や専門学科、総合学科を設置するなど多様な選択を可能にしている。私立高校は、設置者独自の建学の精神に基づき、個性豊かで特色ある教育活動を、経営の安定に努めながら展開している。このように、公私で担うべき役割や特性がそれぞれあることから、公私が協調して協議を行って募集定員総数を策定し、子どもたちの選択肢の維持・充実を図る必要がある。

○　地域ごとに中学校卒業者数の増減の状況、県立高校と私立高校の設置数や学校規模、中学生の進路状況などが異なることを勘案すると、各地域の公私比率については、桑名・四日市地域、鈴鹿・津地域、伊勢地域では、県立高校がやや低く、私立高校がやや高くなるように、松阪地域、伊賀地域では、現在と大きく変わらないように策定されることが適切である。（※尾鷲・熊野地域は県立高校のみ）

○　その結果、県全体の公私比率については、中学生の進路希望や進路状況などが毎年度変化することから正確に予測することは難しいものの、令和９年度には県立高校が 74.0～74.5％程度、私立高校が 26.0～26.5％程度となることが見込まれる。

（２）全日制計画進学率の計算方法について

近年、全日制高校への進学希望者の割合が低下傾向にあることなどから、計画進学率と実績進学率との差が以前より大きくなっている。このことから、令和５年度から令和７年度までは、１～４年前の進路希望状況調査の結果と５年前の実績進学率の５か年平均値を用い、令和８年度より１～３年前の進路希望状況調査の結果と４，５年前の実績進学率の５か年平均値を用いる。

（３）各地域の全日制高校入学見込み人数について

地域によって全日制高校への進学率が異なることや、生徒の多くは、希望する学科や学校の特色、通学の利便性等を考慮しながら、地域を越えて学校を選択していることから、地域別の計画進学率（※１）や地域間流出入率（※２）を乗じて各地域の入学見込み人数を算出する。

※１　県全体の計画進学率と同様に、各地域における１～３年前の進路希望状況調査の結果と４，５年前の実績進学率の５か年平均値を用いる。

※２　「地域内の全日制高校への入学者」を「地域内中学校から全日制高校への進学者数」で割った値を表す。県全体の流出入率と同様に５か年平均値を用いる。

（４）学校別募集定員の策定について

募集定員総数が策定された後は、全日制高校入学見込み人数の増減を基本に、各地域における中学生の進路状況、学科の配置や欠員等を勘案し、県立高校と私立高校それぞれが学校ごとの募集定員を策定する。

資料２－２

令和８年度募集定員の策定について

資料２－１をふまえ、募集定員総数を以下の手順で策定する。

（１）令和８年度の県内全日制高校入学見込み人数の算定

① 令和８年３月中学校卒業見込み生徒数　　15,488 人（▲224）暫定

※R6.5.1 調査による。R7.5.1 調査の数値に基づきあらためて算出。

② 全日制計画進学率　　88.1%　（▲0.7）

※１～３年前の１２月進路状況調査と４～５年前の全日制高校への実績進学率の５か年平均値。

卒業年月	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3
12月希望	90.8%	90.6%	90.0%	90.0%	89.1%	88.0%	87.8%	87.6%
実績進学率	89.8%	89.6%	89.2%	88.9%	88.1%	87.2%	86.6%	－
				88.1%				

③ 令和８年度全日制高校進学見込み人数（①×②）　　13,645 人（▲307）暫定

④ 流出入率　　％（　　）

※（県内全日制高校入学者数）÷（全日制高校進学者数）を過去５か年平均した値。

卒業年月	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3
流出入率	98.0%	98.4%	98.4%	98.9%	98.5%	98.6%	98.7%	%
				%				

⑤ 令和８年度県内全日制高校入学見込み人数（③×④）　　人　（▲　　）

（２）各地域における全日制高校入学見込み人数の増減をふまえた募集定員総数の策定

各地域の全日制高校入学見込み人数の増減をふまえ、以下の事項に留意して募集定員総数を策定する。

＜留意事項＞

ア　提言に示された令和９年度までの各地域の公私比率の方向性をふまえる。

イ　各地域の全日制高校入学見込み人数の増減に対する募集定員の増減は、基本的に各地域内で対応する。

ウ　県立は学級編制単位の 40 人、私立は５人を増減の最小単位として調整する。

エ　重なりは２桁以内とする。

参考

令和７年度募集定員の策定について

① 中学校卒業見込み生徒数　１５，７１２人（前年度比▲１７９）

×　全日制計画進学率　８８．８％（※１）

② 全日制高校進学見込み人数　１３，９５２人（前年度比▲２４０）

×　流出入率　９８．６％（※２）

③ 県内全日制高校入学見込み人数　１３，７５７人（前年度比▲２３６）

⑥ 重なり４８人（０．３％）（※３）

↓

県立１０，２４０		私立３，５６５

④ 県立高校募集定員総数
１０，２４０人（前年度比▲２００）
７４．４％（▲０．２）

⑤ 私立高校募集定員総数
３，５６５人（前年度比▲１５）
２５．９％（＋０．３）

※１　全日制計画進学率

R5～7年度募集定員の策定までは、1～4年前の12月進路状況調査と5年前の全日制高校への実績進学率の5か年平均値を使用

卒業年月	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3
12月希望	91.4%	90.8%	90.6%	90.0%	90.0%	89.1%	88.0%	87.8%
実績進学率	90.1%	89.8%	89.6%	89.2%	88.9%	88.1%	87.2%	86.6%
				88.8%				

※2　流出入率

（県内全日制高校入学者数）÷（全日制高校進学者数）により算出した割合の5か年平均値。

卒業年月	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3
流出入率	98.6%	98.0%	98.4%	98.4%	98.9%	98.5%	98.6%	98.6%
				98.6%				

※3　重なり

県内全日制高校入学見込み人数に対する県立高校募集定員総数と私立高校募集定員総数が重複する人数。この人数は、2桁以内とすることとしている。

資料２－３

令和９年度までの募集定員の公私比率等について

令和４年２月１６日
高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会

高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会（以下「部会」）は、平成 31 年度から令和３年度までの募集定員の策定にかかる検証および令和９年度までの公私比率等についての検討を行いました。ここに、そのまとめを、三重県公私立高等学校協議会（以下「公私協」）に提言します。

１　経緯

平成 31 年度以降の募集定員は、部会が平成 30 年２月に提言としてまとめた「平成 33（令和３）年度までの募集定員の公私比率等について」をふまえ、年度ごとに公私協で協議を行い策定してきました。

平成 30 年２月の提言では、「中学校卒業者数は、平成 34（令和４）年３月には一旦、増加に転じますが、平成 35（令和５）年３月以降は再び減少傾向が続くことが予測されます。平成 34（令和４）年度以降の公私比率等の方向性については、ここに提言として示した公私比率等の方向性をふまえ策定した平成 33（令和３）年度までの募集定員や中学生の進路状況、高校教育の多様な選択肢の維持・充実や学校の特色化・魅力化が図られているか等の観点から検証したうえで、改めて検討する必要があります。」とされていることから、令和３年３月に部会を改めて設置し、令和５年３月から令和９年３月までの中学校卒業者数の減少を見据えた公私比率等のあり方について検討を行いました。

２　令和３年度までの募集定員の策定に係る検証

平成 31 年度から令和３年度までの検証にあたっては、募集定員と公私比率の推移、全日制高校への進学率や中学生の進路希望と進学実績の状況、県立高校と私立高校の定員の充足状況等を資料として、募集定員や公私比率に関する全国の状況（※１，※２）も参考にしながら協議を行いました。また、令和２年度に高等学校等就学支援金制度が拡充されたことにより、生徒の選択の幅が広がったことや、制度のさらなる充実について意見が出されました。

※１　それぞれの都道府県で公私比率の設定方法や学校規模･配置は違うものの、令和２年度の全国の募集定員の公私比率（学校基本調査より）は 64.0％:36.0％であり、三重県（約 177 万人）を含む人口 150 万人以上 200 万人未満の８県（福島、栃木、群馬、岐阜、三重、岡山、熊本、鹿児島）の募集定員を合計した公私比率は 70.5％:29.5％である。

※２　令和２年度の募集定員総数に占める公私合わせた総欠員数の割合の全国平均（学校基本調査より）は 8.6％であり、三重県は 3.4％である。

また、公私協での意見を受け、県内全日制高校入学見込み人数の算定に用いる進学率について、各地域の全日制高校入学者の流出入の状況と募集定員について、県立高校の入学者選抜における再募集についても協議を行いました。

（１）県全体の状況

①募集定員総数と公私比率の推移【資料１】

平成 31 年度から令和３年度までの各年度の募集定員総数については、平成 31 年度は前年度と比較して 610 人の減となり、県立高校で 520 人、私立高校で 90 人を減じました。令和２年度は 320 人の減を、すべて県立高校で減じました。令和３年度は 655 人の減となり、県立高校で 640 人、私立高校で 15 人を減じました。したがって、募集定員総数はこの３年間で 1,585 人の減となり、県立高校で 1,480 人、私立高校で 105 人を減じました。

公私比率については、平成 30 年度の 77.3:23.1 から令和３年度には 75.6:25.0 となり、３年間で県立高校の比率が 1.7 ポイント低下し、私立高校の比率が 1.9 ポイント上昇しました。

②中学校卒業者の進路状況の推移【資料２】

全日制高校への進学率は年々低下しており、平成 30 年３月卒業者が 89.8%であったのに対し、令和３年３月卒業者は 88.9%と３年間で 0.9 ポイント低下しました。このうち、県内の全日制高校への進学率が 87.1%から 86.5%へと３年間で 0.6 ポイント低下したのに対し、県外の全日制高校への進学率は、2.5%程度で大きな変化は見られませんでした。また、定時制高校と高等専門学校への進学率は、３年間で大きな変化がなかったのに対し、通信制高校への進学率は年々上昇し、3.5%から 4.9%へと３年間で 1.4 ポイント上昇しました。

このように、通信制高校への進学率の上昇が、全日制高校への進学率の低下に影響を与えています。不登校を経験した生徒や特別な支援を必要とする生徒からのニーズが高まっていることや、全日制高校と同じように毎日通学できる全日型コースの人気が高まっていることが背景として考えられます。通信制高校への進学者のうち、私立高校への進学者が９割を超えており、その約半数が県外に本校がある広域通信制高校への進学者となっています。

③中学生の進路希望状況と進学実績【資料３】

進路希望状況と進学実績をみると、７月から 12 月にかけて、体験入学や進路説明会等を経て、生徒の進路希望がだんだんと固まっていく様子がうかがえます。令和３年３月卒業者の全日制高校への進学希望者は 12 月時点で 90.0%でしたが、進学実績は 88.9%で 1.1 ポイント低下しています。その内訳を見ると、県内県立高校へは、12 月時点で 70.8%の生徒が希望しており、進学実績は 65.5%で 5.3

ポイント低下しています。県内私立高校へは、12 月時点で 16.8%の生徒が希望しており、進学実績は 21.0%で 4.2 ポイント上昇しています。同様に 12 月時点と進学実績とを比較すると、高等専門学校については 0.2 ポイント低下していますが、定時制高校では 0.4 ポイント、通信制高校では 0.9 ポイント上昇しています。このことから、全日制高校や高等専門学校への進学を希望していた生徒の一部が、受験までの段階で希望が変わったり、受験を経て定時制高校や通信制高校へと進学したりしている状況が分かります。

全日制高校入学見込み人数の算出に用いる計画進学率については、12 月の進路希望状況調査における全日制高校への進学希望者の割合を過去５か年平均した値を使用しています。近年、全日制高校への進学希望者の割合が低下傾向にあることなどから、計画進学率と実績進学率との差が大きくなっています。

【表１】は公私比率の計画値（公私の募集定員の比率）と実績値（公私の入学者数の比率）の推移を表しています。募集定員総数は、県立高校と私立高校が互いに切磋琢磨して特色化・魅力化が図られるよう、県内全日制高校入学見込み人数よりも一定数多く設定しており、当該分は公私双方の募集定員（重なり）として扱っています。この重なり部分の入学者については、平成 31 年度以前は県立高校へ入学する傾向にありましたが、令和２年度と令和３年度は公私双方に入学しています。

【表1】公私比率の計画値と実績値の推移

入学年度	平成30年度	平成31年度	令和２年度	令和３年度
公私比率【計画値】 （重なり）	77.3：23.1 (0.4)	77.0：23.5 (0.5)	76.8：24.0 (0.8)	75.6：25.0 (0.6)
公私比率【実績値】 （計画値との差）	77.9：22.1 (0.6：▲1.0)	77.8：22.2 (0.8：▲1.3)	76.5：23.5 (▲0.3：▲0.5)	75.3：24.7 (▲0.3：▲0.3)

※公私比率（計画値）の合計が100を上回るのは、県内全日制入学見込人数に対して、県立高校と私立高校の募集定員に重なりを設けているためである。

なお、県内県立高校への進学者の中には、再募集を受検して入学する生徒がいます。再募集については、生徒にとって進路選択の機会の１つとなっている一方で、新年度直前に入学辞退者が出ることによる私立高校への影響が指摘されています。

（２）地域ごとの状況

【資料４】募集定員と公私比率の推移（地域別）
【資料５】部会提言における各地域の公私比率の方向性と推移
【資料６】県内全日制高校への進学者数と進学率の推移（地域別）
【資料７】全日制高校進学者の地域間の移動状況
【資料８】全日制高校入学者・欠員・充足率の推移（地域別）

①桑名・四日市地域

平成 31 年度から令和３年度までの募集定員は、県立高校で 440 人減、私立高校で６人減となりました。公私比率は、県立高校の比率が 1.8 ポイント低下、私立高校の比率が 1.8 ポイント上昇して 76.7 : 23.3 となり、提言で示された「県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高く」という方向性に沿った状況となりました。

この地域には県立高校が 16 校、私立高校が４校あり、全日制高校における多様な選択肢が保障されています。この地域の中学校卒業者の県内全日制高校への進学率は 86.1%から 85.6%へと 0.5 ポイント低下する一方で、通信制高校への進学率は上昇しました。

令和３年３月卒業者の全日制高校進学者の地域間の移動状況を見ると、この地域の中学校からの全日制高校進学者のうち、89.8%が地域内、10.2%が地域外の全日制高校に進学しています。地域外の主な内訳は、鈴鹿・津地域へ 5.9%、愛知県など県外へ 3.6%となっています。この地域では、他地域への流出者より他地域からの流入者のほうが多く、地域間流出入率（注１）は 103.8%でした。

欠員の状況を見ると、県立高校では令和２年度まではほぼ定員を充足していたものの、令和３年度に 88 名の欠員が生じました。また、私立高校では平成 31 年度と令和２年度には４校合わせて 200 人程度の欠員が生じていましたが、令和３年度の欠員は 39 人となりました。

（注１）地域内の全日制高校への入学者（県外および県内他地域からの入学者も含む）を地域内中学校から全日制高校への進学者数（県外および県内他地域への進学者を含む）で割った値を表す。

②鈴鹿・津地域

平成 31 年度から令和３年度までの募集定員は、県立高校で 375 人減、私立高校で 39 人減となりました。公私比率は、県立が 1.6 ポイント低下、私立が 1.6 ポイント上昇して 73.1：26.9 となり、提言に示された「県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高く」という方向性に沿った状況となりました。

この地域には県立高校が 14 校、私立高校が３校あり、全日制高校における多様な選択肢が保障されています。県内全日制高校への進学率は、年度によってやや高くなったり低くなったりするものの、86.7%から 86.9%へと 0.2 ポイント上昇

しました。地域間の移動状況を見ると、80.3%が地域内、19.7%が地域外に進学しています。地域外の主な内訳は、桑名・四日市地域へ 12.2%、松阪地域へ 3.6%となっています。この地域では流入者よりも流出者の方が多く、地域間流出入率は 97.9%でした。

欠員の状況を見ると、毎年公私合わせて 120 人程度の欠員が生じており、平成 30 年度と平成 31 年度はほぼ私立高校で欠員が生じていましたが、令和２年度と令和３年度は公私でおおよそ同数の欠員を生じています。

③松阪地域

平成 31 年度から令和３年度までの募集定員は、県立高校で 160 人減、私立高校で 10 人減となりました。公私比率は、県立が 2.8 ポイント低下、私立が 2.8 ポイント上昇して 65.4：34.6 となり、提言に示された「県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように」という方向性とは異なる状況となりました。

この地域には県立高校が６校、私立高校が１校あり、全日制高校における多様な選択肢が保障されています。県内の全日制高校への進学率は 90.5%から 88.7%と 1.8 ポイント低下する一方で、県外の全日制高校や通信制高校への進学率が増加しています。地域間の移動状況を見ると、63.8%が地域内、36.2%が地域外に進学しています。地域外の主な内訳は、鈴鹿・津地域へ 17.9%、伊勢地域へ 16.1%となっています。この地域は流入・流出とも大きい地域となっていますが、全体としては流入者よりも流出者の方が多く、地域間流出入率は 93.9%でした。

欠員の状況を見ると、県立高校では令和２年度の 79 人を除くと、毎年 20 人程度の欠員が生じている一方で、私立高校へは募集定員を超過して入学している状況があります。

④伊勢地域

平成 31 年度から令和３年度までの募集定員は、県立高校で 240 人減、私立高校で 35 人減となりました。公私比率は県立が 2.2 ポイント低下、私立が 2.2 ポイント上昇して 70.5：29.5 となり、提言で示された「県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように」という方向性と異なる状況となりました。

この地域には県立高校が９校、私立高校が２校あり、全日制高校における多様な選択肢が保障されています。県内全日制高校への進学率は 89.7%から 89.4%と 0.3 ポイント低下し、県外の全日制高校や通信制高校への進学者が増加しました。地域間の移動状況を見ると、84.7%が地域内、15.3%が地域外の全日制高校に進学しており、地域外の主な内訳は松阪地域へ 11.7%となっています。この地域は流出者よりも流入者の方が多く、地域間流出入率は 106.5%でした。

欠員の状況を見ると、県立高校で毎年 100 人前後の欠員が生じている一方で、私立高校へは毎年募集定員を超過して入学している状況があります。

⑤伊賀地域

平成 31 年度から令和３年度までの募集定員は、県立高校で 120 人減、私立高校で 15 人減となりました。その結果、公私比率は 87.0：13.0 と県立で 0.2 ポイント低下、私立で 0.2 ポイント上昇し、提言で示された「県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように」という方向性に沿った状況となりました。

この地域には、県立高校が５校、私立高校が１校ありますが、私立高校への進学者のほとんどは系列中学校からの内部進学者であり、全日制高校における多様な選択肢の保障には、県立高校が大きな役割を果たしています。県内全日制高校への進学率は 84.1%から 82.1%と 2.0 ポイント低下しており、通信制高校への進学者が増加しています。地域間の移動状況を見ると、80.5%が地域内、19.5%が地域外に進学しています。地域外の主な内訳は、鈴鹿・津地域へ 9.8%、関西圏などの県外へ 5.6%となっています。この地域への流入者は少なく、地域間流出入率は 87.0%でした。

欠員の状況を見ると、私立高校で毎年欠員を生じている一方で、県立高校は毎年ほぼ定員を充足しています。

⑥尾鷲・熊野地域

この地域には私立高校がないことから、平成 31 年度から令和３年度までの募集定員 145 人の減をすべて県立高校で減じました。

この地域には県立高校が３校あり、普通科に加えて専門学科や総合学科を設置することなどにより、全日制高校における多様な選択肢を保障しています。県内全日制高校への進学率は 87.4%から 85.7%と 1.7 ポイント低下し、通信制高校への進学者が増加しています。地域間の移動状況を見ると、81.3%が地域内、18.7%が地域外に進学しています。地域外の主な内訳は、和歌山県などの県外へ 7.3%、松阪地域へ 6.3%となっています。この地域への流入者はほとんどなく、地域間流出入率は 82.8%でした。

欠員数については、平成 30 年度には 100 人を超えていましたが、平成 31 年度と令和２年度は 70 人台、令和３年度は 20 人となっています。

３　令和９年度までの公私比率等について

中学校卒業者数は、令和４年３月には前年度から一旦増加するものの、令和４年３月から令和９年３月までの５年間で、約 1,000 人減少することが見込まれます。また、令和 10 年３月以降は、さらに急激な減少が予測されています。このような中にあっても、本県の高等学校が次代を担う三重の子どもたちにとって魅力ある学びの場であり続けられるよう、県立高校と私立高校が切磋琢磨して取り組むことが大切です。

今後も中学生の進路を保障するという観点を重視し、県立高校と私立高校の双方により高校教育の多様な選択肢の維持・充実を図りながら、県民の理解が得られるよう、以下に示すように募集定員を策定することが求められます。

（参考）【資料９】中学校卒業者数の推移と予測

（１）毎年度の募集定員総数の策定

県内全日制高校への進学率は、通信制高校への進学率の高まり等により低下傾向にあり、定時制高校、高等専門学校や県外全日制高校への進学については、大きな変化はないものの年度によって異なる状況がありました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大など、今後も予測できない環境の変化により中学校卒業者の進路状況に影響を与えることも考えられます。

これらのことから、今後の募集定員総数についても、できる限り正確な中学校卒業者数の増減予測をふまえて、中学生の進路状況を検証しながら、生徒のニーズや社会の変化に柔軟に対応できるよう、毎年度公私協の場で協議を行い策定する必要があります。

近年、全日制高校への進学希望者の割合が年々減少していることなどから、計画進学率と実績進学率との差が大きくなり、募集定員総数の充足率は以前より低くなっています。募集定員総数の策定にあたっては、生徒一人ひとりの希望や適性に応じた進路を保障することを基本としつつ、中学生の進路選択が多様化している状況にも適切に対応していく必要があります。

（２）全日制高校の特色化と魅力化について

近年、通信制高校への進学希望者が増え、全日制高校への進学率は年々低下しています。当初は全日制高校への進学を希望していたものの、受験までの段階や受験を経ていく中で、最終的に通信制高校等へ進路変更をした生徒も一定数ありました。また、定員が充足していない中、隣接県の高校への進学者が比較的多い地域もあります。

これらのことから、中学生が高校を選択する際に重視する特色や魅力をふまえ、全日制高校は集団の中で多様な考えに触れ、互いに切磋琢磨できる教育活動を強みとしながら、県立高校は活性化計画に基づき、私立高校は建学の精神に基づいて、公私双方がより一層の特色化・魅力化を図るとともに、これまで以上に多様な生徒を受け入れるよう努め、生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応える公教育の役割を果たしていく必要があります。

（３）公私比率等のあり方と方向性について

県立高校と私立高校がともに魅力ある学校づくりを進め、公私双方で生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応えながら、中学校卒業者数の減少に適切に対応していくためには、今後の公私比率を確定的に定めるものではないものの、その方向性を明らかにする必要があります。

県立高校は、県内の広域にわたり学校を設置し、普通科や専門学科、総合学科を設置するなど多様な選択を可能にしています。私立高校は、生徒急増期に中学生の進路保障に大きな役割を果たした経緯があり、設置者独自の建学の精神に基づき、県立高校にはない個性豊かで特色ある教育活動を、経営の安定に努めながら展開しています。このように、公私で担うべき役割や特性がそれぞれあることから、中学校卒業者数の減少の中にあっても、公私が協調して協議を行って募集定員総数を策定し、子どもたちの選択肢の維持・充実を図る必要があります。

中学校卒業者数は、令和９年度までの５年間に県全体で約 1,000 人減少することが見込まれますが、それぞれの地域における中学校卒業者数の増減の状況、県立高校と私立高校の設置数や学校規模、中学生の進路状況などは異なります。これらを勘案すると、各地域の公私比率については、地域間の生徒の移動はあるものの、桑名・四日市地域、鈴鹿・津地域、伊勢地域では、令和９年度には現在と比較して県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高くなるように、松阪地域、伊賀地域では、県立高校と私立高校の比率が現在と大きく変わらないように策定されることが適切です。(※尾鷲・熊野地域は私立高校がないため県立高校のみで生徒減に対応)。その結果、県全体の公私比率については、県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高くなり、中学生の進路希望や進路状況などが毎年度変化することから正確に予測することは難しいものの、令和９年度には県立高校が 74.0～74.5％程度、私立高校が 26.0～26.5％程度となることが見込まれます。

募集定員総数が策定された後は、地域ごとの進学率や地域間の移動状況を考慮した全日制高校入学見込み人数の増減を基本に、各地域における中学生の進路状況、学科の配置や欠員等を勘案し、県立高校と私立高校それぞれが学校ごとの募集定員を策定することが求められます。

４　令和 10 年度以降の公私比率等について

令和 10 年３月以降の中学校卒業者数は、令和４年３月から令和９年３月までと比べて急激な減少が続くことが予測されます。令和 10 年度以降の公私比率等の方向性については、ここに提言として示した公私比率等の方向性をふまえ策定した令和９年度までの募集定員や中学生の進路希望と進路状況、各地域において高校教育の多様な選択肢の維持・充実や学校の特色化・魅力化が図られているか等の観点から検証を行ったうえで、改めて検討する必要があります。

募集定員と公私比率の推移（県全体）

資料１

			平成30年度	平成31年度	令和２年度	令和３年度
中学校卒業見込者数（人）			17,459	16,823	16,489	15,781
計画進学率（%）			92.0	91.8	91.5	91.0
流出入率（%）			98.6	98.5	98.4	99.1☆
県内全日制高校入学見込者数（人）			15,837	15,212	14,846	14,232
募集定員（人）	**県立（人）**		**12,240**	**11,720**	**11,400**	**10,760**
		前年度比	**－**	**▲ 520**	**▲ 320**	**▲ 640**
		平成３０年度比	**－**	**▲ 520**	**▲ 840**	**▲ 1,480**
	私立（人）		**3,660**	**3,570**	**3,570**	**3,555**
		前年度比	**－**	**▲ 90**	**±0**	**▲ 15**
		平成３０年度比	**－**	**▲ 90**	**▲ 90**	**▲ 105**
	計（人）		**15,900**	**15,290**	**14,970**	**14,315**
		前年度比	**－**	**▲ 610**	**▲ 320**	**▲ 655**
		平成３０年度比	**－**	**▲ 610**	**▲ 930**	**▲ 1,585**
公私比率（%）　県立：私立			**77.3：23.1**	**77.0：23.5**	**76.8：24.0**	**75.6：25.0**
募集定員の公立・私立の重なり（人）			63	78	124	83
重なり（%）			0.4	0.5	0.8	0.6

※愛農学園・青山の私立２校の募集定員を除く

※計画進学率：中学３年生の全日制高校への進路希望調査（１２月）の過去５年間の平均値
※流出入率：県外中学生の県内高校進学と、県内中学生の県外高校進学の流出入の割合の過去５年間の平均値（平成３０年度以前は３年の平均値）
☆令和３年度の算定にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的事情、生活の安全確保、移動制限による不便さなどで県内から他県への進学者数が減少する場合に備え、県内での進学先を保障できるよう、過去10年間で県外全日制高校への進学者が最小（336人）であった平成22年３月卒業者の流出入率99.1%を用いることとした。従来の算出によると98.4となる。

資料２

中学校卒業者の進路状況の推移

卒業年度	中学校卒業者	全日制高校進学者					通信制高校進学者	定時制高校進学者	高等専門学校進学者	特別支援高等部進学者	就職・その他
		県内			県外	計					
		県立	私立	計	公私立						
平成29年度	17,458	11,875	3,328	15,203	477	15,680	613	355	419	166	225
		68.0%	19.1%	87.1%	2.7%	89.8%	3.5%	2.0%	2.4%	1.0%	1.3%
平成30年度	16,811	11,436	3,191	14,627	431	15,058	681	351	385	154	182
		68.0%	19.0%	87.0%	2.6%	89.6%	4.1%	2.1%	2.3%	0.9%	1.1%
令和元年度	16,489	10,943	3,327	14,270	433	14,703	714	343	360	164	205
		66.4%	20.2%	86.5%	2.6%	89.2%	4.3%	2.1%	2.2%	1.0%	1.2%
令和２年度	15,777	10,327	3,314	13,641	381	14,022	770	337	355	142	151
		65.5%	21.0%	86.5%	2.4%	88.9%	4.9%	2.1%	2.3%	0.9%	1.0%

資料3

中学生の進路希望状況と進学実績（全日制・定時制・通信制・高等専門学校）

卒業年月			進路希望状況				進学実績		12月との差
			7月		12月				
平成30.3	全日制高校		16,230	93.1%	15,828	90.7%	15,680	89.8%	▲ 0.9
		県内県立	14,435	82.8%	13,033	74.7%	11,875	68.0%	▲ 6.7
		県内私立	1,505	8.6%	2,348	13.5%	3,328	19.1%	5.6
		県外	290	1.7%	447	2.6%	477	2.7%	0.1
	定時制高校		184	1.1%	309	1.8%	355	2.0%	0.2
	通信制高校		193	1.1%	438	2.5%	613	3.5%	1.0
	高等専門学校		343	2.0%	517	3.0%	419	2.4%	▲ 0.6
	中学校卒業者数		17,441		17,442		17,458		
平成31.3	全日制高校		15,576	92.7%	15,206	90.5%	15,058	89.6%	▲ 0.9
		県内県立	13,726	81.7%	12,451	74.1%	11,436	68.0%	▲ 6.1
		県内私立	1,526	9.1%	2,360	14.1%	3,191	19.0%	4.9
		県外	324	1.9%	395	2.4%	431	2.6%	0.2
	定時制高校		206	1.2%	303	1.8%	351	2.1%	0.3
	通信制高校		210	1.3%	461	2.7%	681	4.1%	1.4
	高等専門学校		401	2.4%	491	2.9%	385	2.3%	▲ 0.6
	中学校卒業者数		16,795		16,793		16,811		
令和2.3	全日制高校		15,097	91.6%	14,828	90.0%	14,703	89.2%	▲ 0.8
		県内県立	13,210	80.2%	11,781	71.5%	10,943	66.4%	▲ 5.1
		県内私立	1,589	9.6%	2,631	16.0%	3,327	20.2%	4.2
		県外	298	1.8%	416	2.5%	433	2.6%	0.1
	定時制高校		223	1.4%	301	1.8%	343	2.1%	0.3
	通信制高校		269	1.6%	535	3.2%	714	4.3%	1.1
	高等専門学校		418	2.5%	482	2.9%	360	2.2%	▲ 0.7
	中学校卒業者数		16,477		16,481		16,489		
令和3.3	全日制高校		14,397	91.3%	14,189	90.0%	14,022	88.9%	▲ 1.1
		県内県立	12,430	78.8%	11,163	70.8%	10,327	65.5%	▲ 5.3
		県内私立	1,645	10.4%	2,651	16.8%	3,314	21.0%	4.2
		県外	322	2.0%	375	2.4%	381	2.4%	0.0
	定時制高校		164	1.0%	265	1.7%	337	2.1%	0.4
	通信制高校		274	1.7%	636	4.0%	770	4.9%	0.9
	高等専門学校		376	2.4%	398	2.5%	355	2.3%	▲ 0.2
	中学校卒業者数		15,775		15,767		15,777		

割合はその時点の中学校卒業（見込み）者数に対する割合を表す。

募集定員と公私比率の推移（地域別）

資料4

		平成30年度		平成31年度		令和２年度		令和３年度		平成30年度からの増減	
		県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立
桑名四日市	学校数(校)	16	4	16	4	16	4	16	4	0	0
	募集定員（人）	4,320	1,186	4,160	1,180	4,080	1,180	3,880	1,180	▲ 440	▲ 6
	公私比率（%）	**78.5**	**21.5**	**77.9**	**22.1**	**77.6**	**22.4**	**76.7**	**23.3**	▲ 1.8	1.8
鈴鹿津	学校数(校)	14	3	14	3	14	3	14	3	0	0
	募集定員（人）	3,520	1,194	3,400	1,160	3,360	1,160	3,145	1,155	▲ 375	▲ 39
	公私比率（%）	**74.7**	**25.3**	**74.6**	**25.4**	**74.3**	**25.7**	**73.1**	**26.9**	▲ 1.6	1.6
松阪	学校数(校)	6	1	6	1	6	1	6	1	0	0
	募集定員（人）	1,160	540	1,120	530	1,080	530	1,000	530	▲ 160	▲ 10
	公私比率（%）	**68.2**	**31.8**	**67.9**	**32.1**	**67.1**	**32.9**	**65.4**	**34.6**	▲ 2.8	2.8
伊勢	学校数(校)	9	2	9	2	9	2	9	2	0	0
	募集定員（人）	1,520	570	1,440	540	1,360	540	1,280	535	▲ 240	▲ 35
	公私比率（%）	**72.7**	**27.3**	**72.7**	**27.3**	**71.6**	**28.4**	**70.5**	**29.5**	▲ 2.2	2.2
伊賀	学校数(校)	5	1	5	1	5	1	5	1	0	0
	募集定員（人）	1,160	170	1,120	160	1,080	160	1,040	155	▲ 120	▲ 15
	公私比率（%）	**87.2**	**12.8**	**87.5**	**12.5**	**87.1**	**12.9**	**87.0**	**13.0**	▲ 0.2	0.2
尾鷲熊野	学校数(校)	3		3		3		3		0.0	
	募集定員（人）	560		480		440		415		▲ 145	
	公私比率（%）	**100.0**		**100.0**		**100.0**		**100.0**		0.0	

県全体	学校数(校)	53	11	53	11	53	11	53	11	0	0
	募集定員（人）	12,240	3,660	11,720	3,570	11,400	3,570	10,760	3,555	▲ 1,480	▲ 105
	公私比率（%）	**77.3**	**23.1**	**77.0**	**23.5**	**76.8**	**24.0**	**75.6**	**25.0**	▲ 1.7	1.9

※愛農学園・青山の私立２校の募集定員を除く

部会提言（平成30年2月）における各地域の公私比率の方向性と推移

資料5

	中長期的な方向性	公私比率の推移					
		平成30年度		令和３年度		平成30年度からの増減	
		県立	私立	県立	私立	県立	私立
桑名 四日市	県立高校の比率がやや低く 私立高校の比率がやや高く	78.5	21.5	76.7	23.3	**▲ 1.8**	**1.8**
鈴鹿 津	県立高校の比率がやや低く 私立高校の比率がやや高く	74.7	25.3	73.1	26.9	**▲ 1.6**	**1.6**
松阪	公私の比率が大きく変わらないよう	68.2	31.8	65.4	34.6	**▲ 2.8**	**2.8**
伊勢	公私の比率が大きく変わらないよう	72.7	27.3	70.5	29.5	**▲ 2.2**	**2.2**
伊賀	公私の比率が大きく変わらないよう	87.2	12.8	87.0	13.0	**▲ 0.2**	**0.2**
尾鷲 熊野	県立高校で増減に対応	100.0		100.0		**0.0**	**0.0**

県全体		77.3	23.1	75.6	25.0	**▲ 1.7**	**1.9**

資料６

県内全日制高校への進学者数と進学率の推移（地域別）

	卒業年度	中学校卒業者（A）	県内全日制進学者 県内県立	県内全日制進学者 県内私立	県内全日制進学者 計（B）	県内全日制進学率（B／A）
桑名・四日市	平成29年度	5,865	3,986	1,061	5,047	86.1%
	平成30年度	5,685	3,861	975	4,836	85.1%
	令和元年度	5,564	3,757	977	4,734	85.1%
	令和２年度	5,359	3,495	1,092	4,587	85.6%
鈴鹿・津	平成29年度	5,237	3,477	1,063	4,540	86.7%
	平成30年度	5,072	3,356	1,056	4,412	87.0%
	令和元年度	5,102	3,296	1,117	4,413	86.5%
	令和２年度	4,845	3,105	1,103	4,208	86.9%
松阪	平成29年度	2,003	1,248	564	1,812	90.5%
	平成30年度	1,931	1,206	522	1,728	89.5%
	令和元年度	1,924	1,109	598	1,707	88.7%
	令和２年度	1,801	1,064	533	1,597	88.7%
伊勢	平成29年度	2,192	1,471	496	1,967	89.7%
	平成30年度	2,079	1,390	491	1,881	90.5%
	令和元年度	1,966	1,255	510	1,765	89.8%
	令和２年度	1,827	1,162	472	1,634	89.4%
伊賀	平成29年度	1,549	1,182	120	1,302	84.1%
	平成30年度	1,503	1,177	112	1,289	85.8%
	令和元年度	1,449	1,127	105	1,232	85.0%
	令和２年度	1,429	1,080	93	1,173	82.1%
尾鷲・熊野	平成29年度	612	511	24	535	87.4%
	平成30年度	541	446	35	481	88.9%
	令和元年度	484	399	20	419	86.6%
	令和２年度	516	421	21	442	85.7%
県全体	平成29年度	17,458	11,875	3,328	15,203	87.1%
	平成30年度	16,811	11,436	3,191	14,627	87.0%
	令和元年度	16,489	10,943	3,327	14,270	86.5%
	令和２年度	15,777	10,327	3,314	13,641	86.5%

資料7

全日制高校進学者の地域間の移動状況（令和3年3月卒業生）

＜表1＞ → その地域の高校へどの地域から入学しているか

↓ 中学生がどの地域の高校へ入学したか

高校所在地	出身中学校所在地							入学者数 ①	うち流入者数	地域間流出入率 ①/②
	桑名・四日市	鈴鹿・津	伊賀	松阪	伊勢	尾鷲・熊野	県外等			
桑名・四日市	4,272	521	12	11	12	8	100	4,936	664	103.8%
鈴鹿・津	281	3,428	122	289	22	9	26	4,177	749	97.9%
伊賀	2	49	1,000	3	0	0	27	1,081	81	87.0%
松阪	18	153	34	1,032	194	30	58	1,519	487	93.9%
伊勢	14	57	5	260	1,405	7	19	1,767	362	106.5%
尾鷲・熊野	0	0	0	2	1	388	4	395	7	82.8%
県内へ進学	4,587	4,208	1,173	1,597	1,634	442	234	13,875	2,350	
県外へ進学	170	60	70	21	25	35		381		
全日制進学者計②	4,757	4,268	1,243	1,618	1,659	477		14,022		
②のうち地域外への流出者数	485	840	243	586	254	89		2,497		
全日制以外	602	577	186	183	168	39				
卒業者数	5,359	4,845	1,429	1,801	1,827	516				

※「県外等」には特別支援学校中等部、過年度卒業生を含む

＜表2＞　表1を割合にしたもの（全日制高校進学者の進学先地域の割合）

高校所在地	出身中学校所在地					
	桑名・四日市	鈴鹿・津	伊賀	松阪	伊勢	尾鷲・熊野
桑名・四日市	89.8%	12.2%	1.0%	0.7%	0.7%	1.7%
鈴鹿・津	5.9%	80.3%	9.8%	17.9%	1.3%	1.9%
伊賀	0.0%	1.1%	80.5%	0.2%	0.0%	0.0%
松阪	0.4%	3.6%	2.7%	63.8%	11.7%	6.3%
伊勢	0.3%	1.3%	0.4%	16.1%	84.7%	1.5%
尾鷲・熊野	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	81.3%
県内へ進学	96.4%	98.6%	94.4%	98.7%	98.5%	92.7%
県外へ進学	3.6%	1.4%	5.6%	1.3%	1.5%	7.3%
地域外への流出者数	10.2%	19.7%	19.5%	36.2%	15.3%	18.7%

全日制高校入学者・欠員・充足率の推移（地域別）

資料8

地域		平成30年度		平成31年度		令和２年度		令和３年度	
		県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立
桑名四日市	学校数(校)	16	4	16	4	16	4	16	4
	募集定員（人）	4,320	1,186	4,160	1,180	4,080	1,180	3,880	1,180
	入学者数（人）	4,315	1,040	4,155	978	4,078	981	3,795	1,141
	欠員(人)	6	146	6	202	2	199	88	39
	充足率（%）	99.9	87.7	99.9	82.9	100.0	83.1	97.8	96.7
鈴鹿津	学校数(校)	14	3	14	3	14	3	14	3
	募集定員（人）	3,520	1,194	3,400	1,160	3,360	1,160	3,145	1,155
	入学者数（人）	3,509	1,081	3,390	1,051	3,301	1,100	3,091	1,086
	欠員(人)	16	113	10	109	63	60	58	69
	充足率（%）	99.7	90.5	99.7	90.6	98.2	94.8	98.3	94.0
松阪	学校数(校)	6	1	6	1	6	1	6	1
	募集定員（人）	1,160	540	1,120	530	1,080	530	1,000	530
	入学者数（人）	1,136	568	1,103	591	1,001	624	971	548
	欠員(人)	24	▲ 28	17	▲ 61	79	▲ 94	29	▲ 18
	充足率（%）	97.9	105.2	98.5	111.5	92.7	117.7	97.1	103.4
伊勢	学校数(校)	9	2	9	2	9	2	9	2
	募集定員（人）	1,520	570	1,440	540	1,360	540	1,280	535
	入学者数（人）	1,430	621	1,354	579	1,268	623	1,161	606
	欠員(人)	91	▲ 51	86	▲ 39	92	▲ 83	120	▲ 71
	充足率（%）	94.1	108.9	94.0	107.2	93.2	115.4	90.7	113.3
伊賀	学校数(校)	5	1	5	1	5	1	5	1
	募集定員（人）	1,160	170	1,120	160	1,080	160	1,040	155
	入学者数（人）	1,122	84	1,119	87	1,047	73	1,030	51
	欠員(人)	38	86	1	73	33	87	10	104
	充足率（%）	96.7	49.4	99.9	54.4	96.9	45.6	99.0	32.9
尾鷲熊野	学校数(校)	3		3		3		3	
	募集定員（人）	560		480		440		415	
	入学者数（人）	456		408		366		395	
	欠員(人)	104		72		74		20	
	充足率（%）	81.4		85.0		83.2		95.2	
県全体	学校数(校)	53	11	53	11	53	11	53	11
	募集定員（人）	12,240	3,660	11,720	3,570	11,400	3,570	10,760	3,555
	入学者数（人）	11,968	3,394	11,529	3,286	11,061	3,401	10,443	3,432
	欠員(人)	279	266	192	284	343	169	325	123
	充足率（%）	97.8	92.7	98.4	92.0	97.0	95.3	97.1	96.5

※愛農学園・青山の私立２校の募集定員を除く

※県外からの入学者、過年度卒を含む

三重県　中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）

資料９①

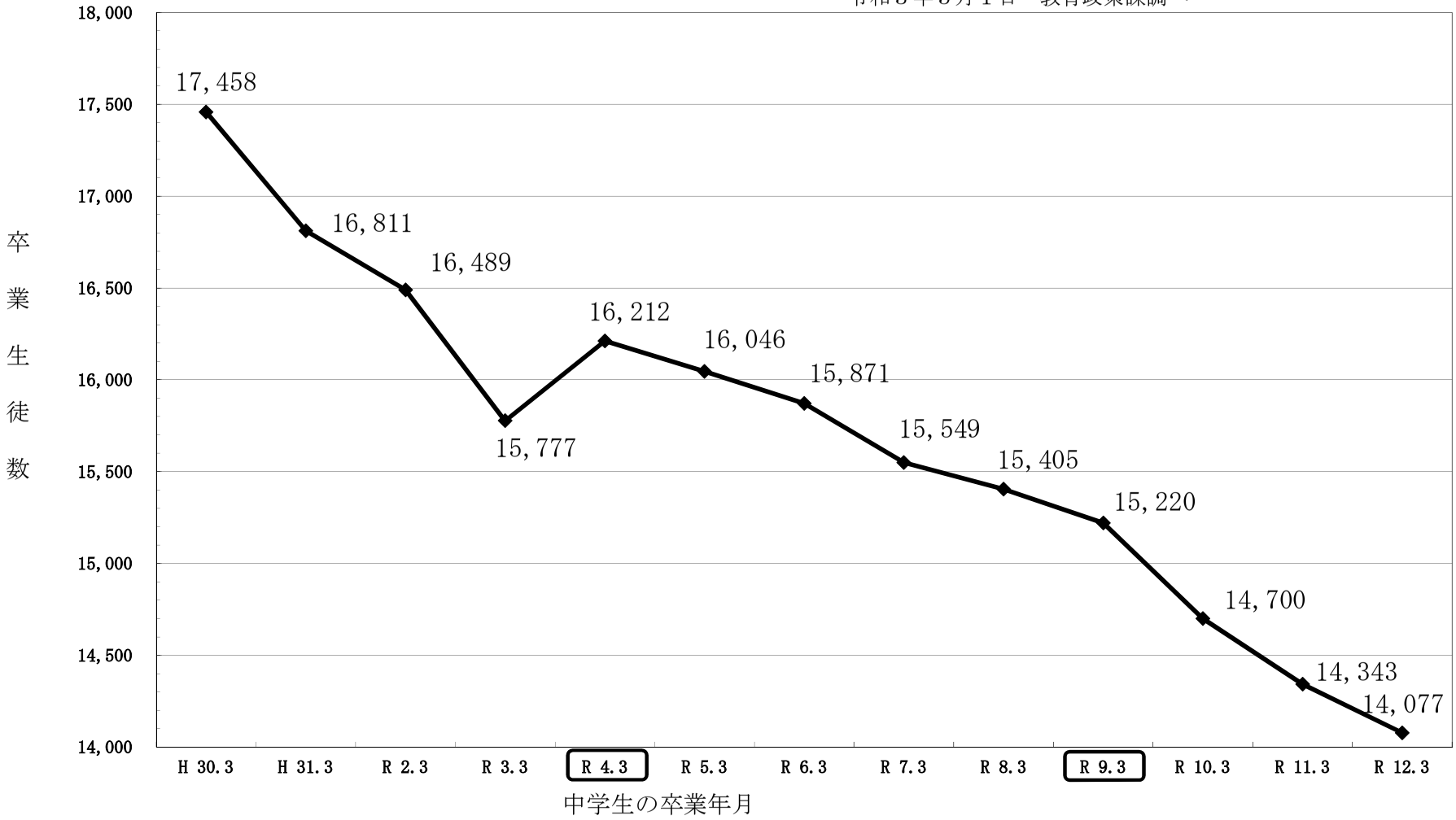
令和3年5月1日　教育政策課調べ

		H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 現中3	R 5.3 現中２	R 6.3 現中１	R 7.3 現小６	R 8.3 現小５	R 9.3 現小４	R 10.3 現小３	R 11.3 現小２	R 12.3 現小１
桑名	卒業者数	2,021	2,048	1,986	1,941	1,968	1,983	1,951	1,979	1,918	1,920	1,868	1,844	1,808
	前年度対比		27	-62	-45	27	15	-32	28	-61	2	-52	-24	-36
	R3.3対比					27	42	10	38	-23	-21	-73	-97	-133
四日市	卒業者数	3,844	3,637	3,578	3,418	3,636	3,442	3,433	3,418	3,503	3,373	3,335	3,248	3,110
	前年度対比		-207	-59	-160	218	-194	-9	-15	85	-130	-38	-87	-138
	R3.3対比					218	24	15	0	85	-45	-83	-170	-308
小計	卒業者数	5,865	5,685	5,564	5,359	5,604	5,425	5,384	5,397	5,421	5,293	5,203	5,092	4,918
	前年度対比		-180	-121	-205	245	-179	-41	13	24	-128	-90	-111	-174
	R3.3対比					245	66	25	38	62	-66	-156	-267	-441
鈴鹿	卒業者数	2,553	2,458	2,416	2,259	2,413	2,219	2,427	2,253	2,221	2,207	2,071	2,103	2,087
	前年度対比		-95	-42	-157	154	-194	208	-174	-32	-14	-136	32	-16
	R3.3対比					154	-40	168	-6	-38	-52	-188	-156	-172
津	卒業者数	2,684	2,614	2,686	2,586	2,516	2,666	2,615	2,496	2,503	2,443	2,399	2,360	2,314
	前年度対比		-70	72	-100	-70	150	-51	-119	7	-60	-44	-39	-46
	R3.3対比					-70	80	29	-90	-83	-143	-187	-226	-272
伊賀	卒業者数	1,549	1,503	1,449	1,429	1,440	1,398	1,385	1,356	1,315	1,332	1,285	1,237	1,192
	前年度対比		-46	-54	-20	11	-42	-13	-29	-41	17	-47	-48	-45
	R3.3対比					11	-31	-44	-73	-114	-97	-144	-192	-237
小計	卒業者数	6,786	6,575	6,551	6,274	6,369	6,283	6,427	6,105	6,039	5,982	5,755	5,700	5,593
	前年度対比		-211	-24	-277	95	-86	144	-322	-66	-57	-227	-55	-107
	R3.3対比					95	9	153	-169	-235	-292	-519	-574	-681
松阪	卒業者数	2,003	1,931	1,924	1,801	1,842	1,931	1,847	1,856	1,791	1,772	1,742	1,560	1,607
	前年度対比		-72	-7	-123	41	89	-84	9	-65	-19	-30	-182	47
	R3.3対比					41	130	46	55	-10	-29	-59	-241	-194
伊勢	卒業者数	2,192	2,079	1,966	1,827	1,879	1,927	1,737	1,768	1,723	1,737	1,598	1,563	1,612
	前年度対比		-113	-113	-139	52	48	-190	31	-45	14	-139	-35	49
	R3.3対比					52	100	-90	-59	-104	-90	-229	-264	-215
尾鷲	卒業者数	281	237	228	242	248	218	212	192	192	203	162	170	143
	前年度対比		-44	-9	14	6	-30	-6	-20	0	11	-41	8	-27
	R3.3対比					6	-24	-30	-50	-50	-39	-80	-72	-99
熊野	卒業者数	331	304	256	274	270	262	264	231	239	233	240	258	204
	前年度対比		-27	-48	18	-4	-8	2	-33	8	-6	7	18	-54
	R3.3対比					-4	-12	-10	-43	-35	-41	-34	-16	-70
小計	卒業者数	4,807	4,551	4,374	4,144	4,239	4,338	4,060	4,047	3,945	3,945	3,742	3,551	3,566
	前年度対比		-256	-177	-230	95	99	-278	-13	-102	0	-203	-191	15
	R3.3対比					95	194	-84	-97	-199	-199	-402	-593	-578
県内合計	卒業者数	17,458	16,811	16,489	15,777	16,212	16,046	15,871	15,549	15,405	15,220	14,700	14,343	14,077
	前年度対比		-647	-322	-712	435	-166	-175	-322	-144	-185	-520	-357	-266
	R3.3対比					435	269	94	-228	-372	-557	-1,077	-1,434	-1,700

資料９②

三重県中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減） グラフ

令和３年５月１日　教育政策課調べ



資料２－４

令和７年５月７日
７三私協第 24 号

三重県公私立高等学校協議会　会長　様

三重県私学協会
会　長　梅村　光久

申　出　書

平素は、私学振興にご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

また、令和６年度から「私立高等学校等授業料減免補助金」として県単独で、就学支援金加算なし世帯（世帯年収 590 万円以上 910 万円未満）へ年 12,000 円の上乗せ補助を行っていただきました。当該補助金は、子ども達や保護者にとって、進路の幅を広げる、貴重な支援となっており、心からお礼申し上げます。

さて、ご存じのように、政府は、令和８年度から、私立高校の授業料に対する就学支援金について、保護者の年収制限を撤廃するとともに、支給上限額を 457,000 円（全国の私立高校授業料の平均額）まで引き上げる方針を打ち出しました。これまで家庭の経済的な事情により、私立高校への進学を諦めていた子ども達も、本当に進みたい学校を選ぶことができるようになり、進路の幅が大きく拡大しました。

このような大きな環境変化のもと、生徒と保護者が私学を選択する機会が増えることが想定され、授業料実質無償化となった私立高校が募集定員を削減することは、逆に進路選択の幅を狭めることに繋がりかねないと懸念しております。

公私比率等検討部会では、令和９年度入試までを視野に入れ、提言を行っていただいており、本来ならその提言に基づき、公私協で公私それぞれの募集総定員数について協議させていただくところですが、こういった大きな環境変化を受けて、令和８年度は、私立学校は募集定員数を昨年度のまま維持することとし、受験生の動向を見守りたいと考えております。

また、環境変化の影響を考慮し、本来なら令和８年度に開催すべき公私比率等検討部会を前倒しして今年度から開催し、令和９年３月以降の公私比率等についてご検討いただきたく、併せてお願いいたします。